

# 中央図書館長に就任して

商経学部教授 堀田 和 宏



このたび、平成11年4月付で中央図書館長を拝命しました。前館長は平成8年から故世耕政隆総長がお務めになり、直接に図書館の運営に携わってこられただけに、その後を担うものとして果たしてご方針を体することができるのか、さらに研究と教育の向上に資することができるのか、館長の責務の大きさを思いつつ就任しました。

就任してわずか2ヶ月を経過しただけであります。はたして館長の責務の大きさを改めて痛感しています。それというのは、すでに図書館の蔵書は膨大な数に達しており、それが構成する資産額と将来の資産評価額は大学の総資産の中で大きな比重を占めていること、すでに書架・閲覧の施設に相当な資金が充当されており、これらのさらなる有効利用が待たれること、他方で、ソフト情報の蓄積が大きくこれが十分に利用されないままに、さらにこの領域のイノベーションが求められていることなど、急務でかつ困難な課題が見受けられるからであります。

さらに、一般的に図書館の機能と役割が大きく変わろうとしていることから、図書館の

今後のあり方について根本的な変革を担う責務が迫っていることでもあります。すでによくつかの大学では大学改革の一つの重要な柱として、図書館を核とする「インテリジェントセンター」を設置する機運にあります。いわゆる学術情報センターの構築による研究・教育のシステム化が目的です。おそらくはわが大学においても近い将来にはこの方向に進むことでしょう。

このような重大な任務を遂行するには、あまりにも力不足であります。座して待つことは許されないという意味で、当面の基本的方向として、次のような課題を少しでも消化してゆかねばならないと考えています。

## ● 情報サービスの拡充

(サービス提供対象の拡充)

- ・ 学生の利用度を高める案内・指導・啓蒙
- ・ 教員へのデータ案内
- ・ 大学への情報提供
- ・ 市民・地域諸団体への資料・情報公開

## ● 情報サービスの高度化

(情報発信・情報創造)

- ・ 大学の研究・教育に関する情報案内
- ・ 情報分析

## ● 情報ネットワークの強化・拡大

- ・ 本部学部内ネットワークの強化
- ・ 全学部間とのネットワークの拡大
- ・ 大学と他の諸機関・社会とのネットワーク

しかしながら、これらの課題に向けて館員が一致努力する際に、図書館の機能には特異な運営上の性格があることに留意しなければなりません。それはおよそ次のような性格であります。

- ・ 図書館がどれだけ有効なサービスを提供し

ているのかを確実に数値でもって測定することができない。したがって、どれだけの費用をかければよいのかを確定することができない。

- サービスされる情報には一つとして同じものがなく、要請されるだけの情報さらには要請されるであろう情報をそれぞれに用意しなければならない。しかも、それらの情報が何時に求められるかも明らかではない。利用される頻度や利用される時期と利用されるまでの滞留時間に大きなズレがある。したがって、少なくとも短期的な費用と効果の比較ができない。

要するに、サービス提供の限度がサービスの費用でもサービスの有効性でも短期的には測定できないから、教員の研究と学生の学習のためのつねに長期的な効果を期待して予めサービスの質と量を予定することが最も基本的な運営のあり方となります。言い換えれば、図書の予算は、大学の発展と成長にとって「促進費用」なのです。

したがって、「わが大学は将来にわたってどのような図書館機能を果たすべきか」という命題がすべての基礎となります。

だからといって、心すべきは、図書館の事業規模が分散の中で増大し、その運営のための組織もまた肥大化していることから、自己の組織の保守と維持のための組織運営に陥ることの誘惑と危険であります。大学にとってなぜ図書館機能と図書館組織が必須不可欠であるのかを忘れてしまう自己目的化の危険です。

ただ、誠に幸いにして、図書館員諸氏の利用者サービスに対する献身的な日常作業と、またそれらのサービスを十分に提供できる高い能力を目の当たりにして、この種の危惧は文字通り杞憂であると信じています。むしろ今後さらに、共に一致努力してあるべき図書館機能をさらに充実させて、大学の発展に資することができるものと意を強くしているところであります。

いずれにしましても、図書館の運営にはまっ

たく未経験であり、加えて非才の身であるだけに、なにとぞ今後さらなるご支援とご指導を賜りたくお願い申し上げ就任のご挨拶と致します。